

未曾有の疫病 COVID-19 が世界中で猛威を振るい、日本・中国で豪雨被害が続いています。感染、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。当地も世界の他の国々同様、この感染のために多くの支障を来しており、私たちの活動も非常に制限されていますが、皆様のご支援に感謝しつつ、ニュースレター第32号をお送りいたします。

《コロナ危機》

東ティモールでコロナ感染患者第一号が確認されたのは比較的遅い3月22日。従って、東ティモール政府は治療に取り組んでいた多くの諸外国から様々な学びつつ、対応することができました。それが幸いして、現在までの感染患者は合計でわずか24名。死者はゼロ、という状況が続いています。何人もの皆様から「医療サービスが十分でない東ティモールでさぞかし大変でしょう」とのお見舞いを頂き、心より感謝申し上げます。



全国でも都市部などわずかな地域を除いて清潔な水のない東ティモールですが、コロナ感染で“手洗い”の習慣が付きましました!!! 写真左は竹を使った手洗場（聖イグナチオ学院）、右はティモール市内の店先。ミネラルウォーターの容器を利用。



3回に及んだ緊急事態宣言発令下で国民の多くが食糧不足に陥りました。私たちは『ラファエラ募金』のご支援で、バボヌク村村長の協力の下、250世帯以上に30kgの米一袋とインスタラーメン一箱の食糧支援を行いました。



2回目の宣言発令下で、月収500ドル以下の世帯に月100ドルの生活支援金が政府によって支給されました。受給者リストの作成は困難を極めました。何とか実施に漕ぎ着けることができ、皆大喜びでした。



世界の他の発展途上国同様、中国政府による“支援”、同国民間企業による進出は凄まじく、国中に中国人経営の1ドルショップが溢れています。写真はティモール市内最大のモールであるティモール・プラザの店内。

《コロナ禍で懸命に生きる女性たち》

【写真下左】 野菜露店の刈ーさん。緊急事態宣言下も休まず営業。

【写真下中央】 1月から当方の女子寮に住んでいるジュンテけさん。不幸な過去にめげず、明るく生きています。彼女の寮費は、親切な従兄弟のデリトさんが、空き缶を集めて稼いだお金で支払われています。

【写真下右】 デリ修道院の隣にあるマコ川の河原に家を作って住んでいる刈ンアさん。男性にとってさえ重労働である、川の砂を濾して建築資材として売る仕事をしていました。そこで、私たちの“低栄養児プロジェクト”のための清掃担当として雇用しました。



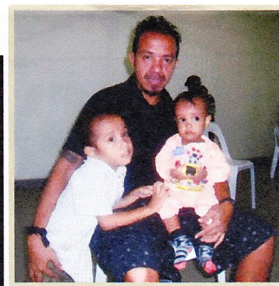
《低栄養児プロジェクト：担当のSr.西川より》

「緊急事態宣言中は私たちの活動もストップせざるを得なくなりました。テレビのニュースで多くの家庭が収入を絶たれ、食べ物もないということを聞き、私たちもこれまでこのプログラムに参加した子供たちの栄養状態を心配していましたので、私たちの方から子供たちの家庭を訪問することを決めました。

栄養不良の重い子供のいる家庭、何の収入もないであろうと思われる貧しい家庭(両親に仕事がないなど)を優先してコンタクトをとり、またこの時期は多くの家族が自分の故郷に帰っていましたが、最終的にデリにいる57家族を訪問することができました。

訪問の目的は、子どもたちの身体測定をして健康状態をチェックすること、準備した食料品(一家庭につき、米25kg、インスタントラーメン1箱、サラダ油5リットル瓶、コンデンスミルク缶とビスケット)を届けることでした。緊急事態宣言期間の影響か、以前より体重減の子供も見られました。特に都市の中心から離れた不便な場所に生活する比較的貧しい人々の中で、そのような状況が多くみられます。

今回初めて実施した家庭訪問で各家庭の生活状況を垣間見ることが出来、これからの活動にも役立つと思われます。また、栄養指導を受けただけではすぐに解決されない問題も多くあることを知り、これからの課題になると思われました。皆様のご支援とお祈りに心から感謝いたします。」

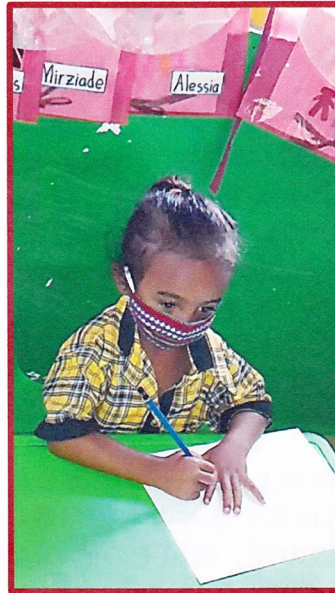


【写真上】 1月に妻を、この度また、娘のフェルソガちゃん(左写真)を栄養失調で亡くしたマリトさん。

【写真左の2枚】 家庭訪問の様子。

《その他の活動》

7月初め、保健省の指示（検温、手洗い、社会的距離保持）に従っての授業再開。二部制にしましたが、全生徒が給食を食べられるよう工夫しています。皆、痩せてしまいましたので。



この度、当地で活動する NGO パルシックさん発売のふりかけを当校の給食でも利用することになりました。貧しいアタカ島漁民支援のための栄養価の高いふりかけです。

原材料の一つは日本でも注目されているマルギで、子どもたちの成長に大変重要です。



★デイのフリースクール

万歳！ソーセージ入りの焼そばだ！



緊急事態宣言終了と同時にフリースクールも再開。この間、デイでも痩せてしまった子どもたちが多いので、栄養のあるおやつを工夫しています。右の写真はマヌル医師による衛生セミナー。

“Fase liman ho sabaun! (石鹸で手を洗おう)” の歌声とともに、念入りに手を洗います 🎵🎵🎵

★バザルテテでのリーダーシップ・トレーニング



ポルトガル人ボランティアのテレサさんによるリーダーシップ・トレーニングに参加しました。自分自身を知り、与えられた能力を知り、自信をもって働くことができるようになりました。印象に残る言葉は“私たちの生き方こそ人々へのメッセージ” “仕えることを知っている人こそ真のリーダー” でした。一緒に参加したバザルテテ小の先生たちも皆、とても喜んでいました。
(Sr.ジヨアナ)



★JENESYS PROGRAM (外務省主催青年交流プログラム)

コロナ危機で実施が危ぶまれていた同プログラムですが、“日本語日本文化”をテーマとしたグループの渡日が可能となり、2月24日から3月5日まで、当日本語教室から3名が参加しました。元気に帰国した時は、本当にほっとしました。



コロナ危機と東ティモールの女性たち



修道院の石地の庭に
咲く日日草

☆Talitha Kum (人身取引に取り組むカトリック団体)

コロナ感染関連の犠牲者の中でも女性は独特な苦境に陥っています。私たちは国際組織 Talitha Kum の東ティモール支部に属し活動しています。Stay Home という政府の厳しいコロナ対策がとられていたため、十分な活動はできませんでしたが、急増している DV 犠牲者のためのシェルターに皆様からのご支援金で食糧支援をさせて頂きました。



2月8日、聖バキアの祝日に、ティモール市内で“人身売買についての集会”を催し、世界中の犠牲者との連帯を深めました。

コロナ危機になって以来、女性人権団体 Fokupers が保護した DV 犠牲者は 55 名に上り、その中には、外出自粛の余波を受けた近親相姦の犠牲者も相当数いる、とのこと。Talitha Kum に直接関連する問題としては、コロナ危機の間、韓国その他の国々に出稼ぎに出ている東ティモール人たちが賃金不払いや突然の解雇などに遭遇しています。

☆風習の犠牲になる若い女性たち

コロナ危機で国中に貧困が蔓延った結果、親から結婚を強いられ、学業を中断せざるを得なくなった女性が少なからず存在します。親が結婚を強制する理由は、東ティモールのしきたりでは、結婚にあたり、女性の家族は男性の家族から多額の結納金を受け取れるからです。当修道院の Sr.ドミンガスによると彼女の実家のある村(村民約 250 人)ではこの間、数名の若い女性たちがそのような風習の犠牲となった、とのこと。また、私たちの若いシスターたちが通う大学でも、緊急事態宣言終了後、同じ理由から大学に戻れなくなった女子大生が数名います。

幸い、当方の寮生たちは、そのような状況には遭遇せず、事態が平常化した 6 月末以降、順次、寮に戻ってきました。出入り時の手洗いを徹底させ、また寝室も余裕のあるものにするため、全体を 2 グループ に分け、1 グループ のためには隣にある別の修道院内の志願者用の部屋を臨時の寝室にしました。



コロナ危機：私たちシスターたちの日々



写真左：期間中、ミサはすべて On-line!!
写真右：全世界のコロナ感染早期収束を祈ります。
写真下：息抜きにサッカーに興じる若いシスターたち



皆様のご無事を心よりお祈りしています。

ラファエラ東ティモール募金事務局
〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-8-5
聖心侍女修道会 Sr.日高和子 <tel:03-3442-9201>